

なら生協連 ニュース

奈良県生活協同組合連合会

No. 9
93. 1.20

奈良市恋の窪1丁目2-2 ならコア気付

☎(0742)34-3535

FAX(0742)34-0043

MYSTERY IN ASUKA PART-1

飛鳥には謎にみちた石像物が多い。それらは何かを私たちに語りかけてくる。しかしその意味はわからない。まさにミステリーである。



〈猿石〉

近鉄飛鳥駅からすぐ間近かに吉備姫の墓といわれる暗塚がある。

その中には猿石といわれる四体の奇石が坐っている。

これは元禄時代に付近の水田から掘り出された物だと言う。

古代の人々は何を思い、何のために作ったのであろうか。

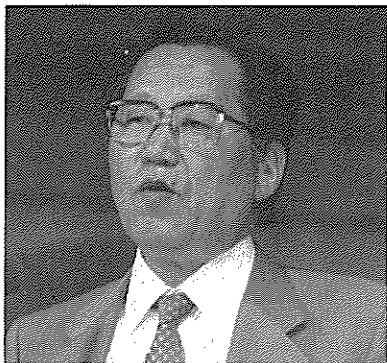
静かに向き合って耳をすませば何かを語りかけてくる。

それは幻覚なのであろうか。

それとも梢の先を流れる風の音なのだろうか……。

今年もよろしくお願い申し上げます。

会長理事	繁田 實造	理事	土田 英二
専務理事	瀧川 潔	監事	末武 愛士
理事	右手 五郎	監事	落合 豊行
理事	小林 利幸		
理事	足田 利政	事務局長	森 宏之



新年にあたって

奈良県生活協同組合連合会
会長 繁田實造

奈良県生活協同組合連合会が結成されてこの三月で三年を経過することになりました。

昔から石の上にも三年ということがいわれ、どんなにつらくとも辛抱強く頑張れば、いつかはきっと報われるときがくるといわれてきました。

われわれの奈良県生協連は、それぞれの歴史を有する五つの生協が、協同互助の精神に基づき会員の事業の発展を図り、会員の生活の安定と生活文化の向上に寄与するという目的の下に、お互いの立場を尊重しながらその活動を真面目に続けてまいりました。

その結果、共通の目的をもってお互いに協力することのすばらしさを十二分に認識し、お互いに援け合って、一步、いや二歩、三歩と、ともに前進した三年であったといえます。

従来のマンネリを打破し、みずから求めた新しい環境の下でどんなにつらくとも辛抱し頑張ってきたこの三年でしたので、お互い予期しえぬ経験も多々あったことと思います。

ところで、われわれのかかる経験と成果により、今年一月早々には、奈良県下の農業協同組合、森林組合および生活協同組合が、協同組合原則ならびに組織の相互尊重の原則に立って協同組合を推進するとともに協同組合間の提携を強化し、組織の総合力の発揮により、奈良県における協同組合の社会的役割の強化と地域の活性化ならびに組合員の生活文化の向上を図るために、奈良県協同組合連絡協議会を結成する運びとなりました。

援けあえば、それぞれの組合員にとって益するところさらに大であると考えられます。

バブル経済が破綻し、今年も厳しい状況下にあるとはいえませんが、かかる状況だからこそ、県下の協同組合が協力・協同し、腕を組んでともにこの苦境を乗り越えていきたいものと、新年にあたって強く願っています。





ICA東京大会生協公開会議

— 県連より瀧川専務が参加 —

ICA東京大会生協公開会議は、10月23日、東京・京王プラザホテルを会場に「21世紀に向かう生協」をテーマに開催されました。

外国からは、25ヶ国63名が参加され、国内各地から200名の参加があり、県連からは瀧川専務が参加しました。

瀧川専務の参加報告より（要旨）

初めてヨーロッパを離れ、アジアの東京で開催されたICA東京大会。会場は外国から、国内各地からの参加者でぎっしりの状態で、朝9時から夕方5時近くまで、コーヒーブレイクと昼食休憩を除き、報告と質疑応答でビッシリつまった内容でした。

座長にはスウェーデンのストレーム女史があたり、日本生協連・高村会長、ユーロコープ（イタリア生協連会長）バルベリーニ議長、スウェーデン・ブリッテン女史、インドアプナ・バザール生協・カンブリ専務、イギリス生協連・ウィルキンソン専務の計5つの報告があり、各国からの質疑がありました。

いわゆる先進国での市場経済における生協の役割は、近代において「偉大な革新」として大きな役割を果たしてきたが、現代では技術革新の中でさらに高水準の市場競争が展開されており、生協が自己のアイデンティティを十分に認識し、人間の価値観を体系的に

吸収し発揮することによって競争力で優位に立つことができるというイタリアの主張は、まさに今後の日本にもあてはまります。

インドや東南アジアや韓国の協同組合の状況からは「先進国」に収奪されてきた各国の民衆が困難な中でも活動を進め、援助に頼る度合いが低い国の生協の方が、より発展していることがわかると報告されて、やはり「自主」を土台として生協が発展してきている様子が感じとられました。

大きな市場シェアを持つスウェーデンの生協連は大々的な合理化を実施しつつ、「生協は経済学の啓蒙を行うという誇り高い目的がある」と言い切る姿に頼もしさを感じ、生協誕生の地で着々と再構築を進めているイギリスからは、組合員のニーズへの対応、決して組合員を無視してはならないことの教訓、技術革新のあくなき追求の必要など苦い教訓が伝えられました。

最後に、ストレーム座長から、「この大会では手段を示すことはできない。各自が各国の事例を生かすことが大切。成功は常には続かない。」と結び会議を終えました。



雑感

労済生協・事務局次長 中井 正道



去る夏の午後、公園で小学生3～4人がキャッチボールをして遊んでいた。そこを通りかかった私は何げなくその光景に目をやりじっと見つめていた。

すると、一人の少年が投げられたボールを取りそこね後方へボールが転がってブッシュの中に入ってしまった。すぐさま少年達はバットやグローブを片手にしながらボールを探しはじめたが、なかなか見つからない。(その間1～2分)

そのうち一人の少年が、“あきらめ顔”をして元の場所へ戻りはじめた。すると他の少年達も同じように戻りはじめるではないか。

私はその時、何とあきらめの早い子ども達だなあと思ひながら見ていると、子ども達は本当に遊びをやめて家路への道をたどりはじめた。

取りそこねたボールが入ったブッシュは公園の「さつき」が植えてある所で、もう少しよく探せば絶対に見つける事ができる場所なのである。なのに、早や、あきらめて帰って行く子ども達の心理が私はわからなくなってしまった。

自分の少年時代を思い出すと、決してそんな事はしなかったのである。なぜか、理由は簡単、ボールをなくせば親に叱られるからで

ある。先述の子ども達のようにあきらめて帰ったりしたら必ず親から問い詰められ、もっとしっかり探せと叱られ、あげくのはては、親の気持ちがおさまらないうちは新しいボールは買ってもらえなかったのである。その事を知っている私達は、例え谷底や池にボールが落ちようとも決してあきらめずに探しに行ったものである。

この様に思う私は“時代錯誤”なのだろうか、“オジサン”をしているのだろうか。

豊食の日本、物があり余っている日本の中で生まれ育った人間(子ども達)は、物をなくすると又、新しい物を買えばよいといとも簡単に割り切ってしまうのだろうか。物を大切にする(扱う)という気持ちはどれほど持ち合わせているのだろうか。

この子ども達が日本の将来を背負うのである。本当にまかせて良いだろうか。

今、日本は世界中から見つめられ、援助を請う国々が多数ある中で、将来の日本を責任をもって担っていける人間を今の親達(私も含めて)は育てているのだろうか。

何か不安を感じるし、豊かさの中で何か大事な物を失ってしまっているような気がする。

この事は私だけが感じることであれば良いのだが。。。。。。

第5回 協同組合フェスティバル

くらしに役立ち、おいしく、楽しく
おとなも、こどもも
秋の一日を、なごやかに

年一回のお祭りである「協同組合フェスティバル」(92.10.25)が、奈良県営競輪場駐車場で行われました。

今年は、昨年より出店の数も増え、入場者数も昨年より5,000人多い35,000人を数え、一日中大盛況でした。

奈良県のうまいもの市、ステージでの楽しいショー、チビッコ広場、環境問題を考えるコーナー、フリーマーケット、バザー、手作りコーナー等、楽しい催しが盛り沢山で、子どもからおとしよりまで秋の一日をなごやかに楽しく過ごしました。



奈良JA中央会、
杉本専務さんのおあいさつ



県連コーナーでは、みたらし団子(労済生協)、ビール・ジュース(おやさと生協)、カレーライス・おでん(女子大生協)、きつねうどん・天ぷらうどん(教育大生協)が繁盛しました。

ならコープでは例年通り、バザーやチャリティ・オークションの収益金で車椅子8台を購入し、奈良県社会福祉課へ寄贈しました。

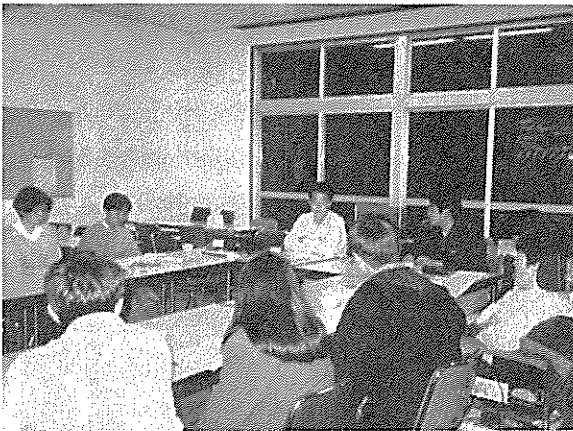


会員生協だより

奈良教育大学生協

奈良教育大学生協では、この秋の強化月間中の企画として、県連・ならコープにも協力をいただき、学園祭で環境問題を知らせるパネル展を、そして12月には県連企画“ノーマウォーのつどい”に呼応して92年平和行進の通し行進者である、ならコープの三谷豊氏を迎え“平和のつどい”を11名の参加で開催しました。

また、12月14日より奈良女子大学生協に引き続き、全部門でのプリペイドカードの導入を行いました。まだ充分浸透していないところもありますが、食堂部では80%を超える利用となっています。(疋田専務理事)



奈良女子大学生協

新年明けましておめでとうございます。

奈良女子大学生協では、生協のお店を組合員が利用し易く、また楽しみがあり、組合員にとって必要な情報が得られる場にしようとして取り組んできました。

学生委員会が、店舗に「花小町ボード」を設置し、組合員の視点からのお店の情報を掲示しています。また「花小町ポスト」を店内に設置し、組合員の意見が寄せ易いように工夫しています。Xmasに向けては手作りの飾りつけを行い、組合員から「うれしい」という一言も寄せられました。

12月は、このような取り組みもあってか店舗の利用客数は去年の20%も増えました。

今は、新入生歓迎のための準備を行っています。

(小林専務理事)



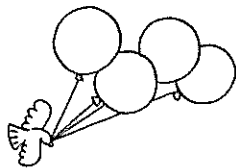
ならコープ

<リサイクル>

アルミ缶を入れると1円玉が出る自動回収機「くうかん鳥」を10月にコープ夕陽ヶ丘とコープ菜畑に設置し、保有店は10店舗に拡大しました。

12月12日の第14回牛乳パック回収は組合員26人、職員59人の参加で15t(45万枚)集まりました。

トレイ分類を行うサークル「自然だいすき会」が結成され、サークル数は15になりました。



<平和>

12月8日、反戦を訴える「ノーモアウオーのつどい」が、新谷のり子さんを迎えてのコンサートと沖縄戦跡めぐりの報告を交えて行われ、140名の参加があり、たいへん好評でした。10・11月のカンパは、被爆者411万円ユニセフ437万円が集まりました。

<福祉たすけあい>

10月25日に行われた第5回協同組合フェスティバルで出た収益金で、奈良県社会福祉協議会に8台の車イスを送りました。

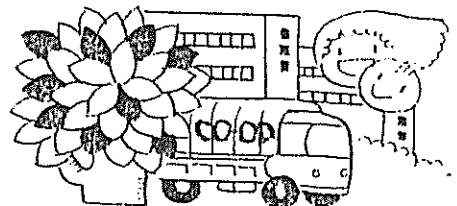
<生活文化>

家族で楽しく参加できる企画として、親子自然観察、コープときめきウォークラリー、親子歴史教室、秋のバードウォッチングなどを行いました。また今年新しく、子育て中のお母さんにも参加できる、おやつ教室を保育付きで行い好評でした。

<消費者運動>

製造物責任法の早期実現をめざす団体署名に取組み8万8千人の署名を集め、奈良県選出の国会議員より国会に持って行ってもらう予定です。

(組合員活動部 秋山)



る時期にきている。その要因として、「製造物責任法」制定をめぐる活動が消費者の権利のひとつとして確固として位置づけられてきたことをはじめ、食の安全と基準、環境問題などの活動の前進が顕著になっているとの基調報告がありました。

「消費者は発言する～北から南から～」では、製造物責任法の早期制定、コメ輸入自由化阻止、消費税廃止、農薬問題、環境問題、等についての活動や運動を強めようと全国各地の代表、会場の参加者からの活発な1分間発言があいつぎました。

最後に今年の大会が、実行委員会に48団体が参加、分科会に約970名、全体会に159団体・653名の参加で、目標を大きく上回る参加者で成功したことが報告され、分科会で出された54本の決議と金権腐敗政治の一層を求める特別決議を採択し閉会しました。

「製造物責任法の制定を求める11.18消費者集会」

<開催日> 11月18日

(13:30~14:30)

<会場> 日比谷野外音楽堂(東京都千代田区)

<主催> 「第31回消費者大会実行委員会」

「消費者のための製造物責任法の制定を求める全国連絡会」

<参加> 160団体・2,000名

2日目の全体会終了のあと午後から会場を移して「製造物責任法の制定を求める11.18消費者集会」が開催されました。

はじめに、河内屋菊水丸さんの「PL音頭」で威勢良く幕開き、大阪いずみ市民生協の「PL法紙芝居」で製造物責任法についてわかりやすく訴えられました。

淡路剛久氏(PL法消費者全国連絡会代表幹事)の開会あいさつでは、製造物責任法の制定を求める運動の11/18現在の到達点(署名・1,145,288名、団体要望書1625団体、自体での意見書採択124地方議会)が報告され、国民生活審議会の答申に関して浦川道太郎氏(早稲田大学教授・国生審PL委委員)から現時点での問題点について報告されました。

次いで、「みんなで答えるPLクイズ」や中村雅人弁護士による講評コメントではユーモアたっぷりに参加者に製造物責任法制定の必要性がアピールされたあと、各地の連絡会・各団体からとりくみの状況報告がありました。

最後に、集会決議を採択、集会終了後参加者全員で、国会に向け請願行進を行いました。



欠陥商品被害から消費者を守る 製造物責任法（PL法）の制定を1日も早く

ならコープでは、消費者のための製造物責任法の制定を求める全国連絡会に結集し、各地の生協でとりくんでいる請願署名・「製造物責任法の早期制定を求める要請書」にとりくみ、昨年11月の短期間で、目標5万人に対して 88,798名の署名をあつめました。

さっそく、奈良県選出の国会議員さんに紹介議員となつていただき、衆議院議長・参議院議長宛てで提出しました。

〔請願項目〕

次の内容を含む製造物責任法を早期に制定すること

- ①欠陥にもとづく製造者の無過失責任の原則を徹底すること。
- ②欠陥の定義は、消費者が期待する安全性を欠く状態をいうこと。
- ③欠陥および欠陥と損害の因果関係についての推定規定を設けること。
- ④開発危険の抗弁を認めないこと。
- ⑤欠陥にかかわる、企業及び行政の情報を開示する義務を明示すること。

第4回近畿地区生協・行政会議報告

去る11月5～6日、日生協関西地連の主催による第4回近畿地区生協・行政会議が開催されました。

行政側からは、厚生省・社会援護局地域福祉課の生協第一係長千田透氏、厚生事務官泉順一氏、近畿2府4県の生協担当部署の方々が参加されました。生協側は、斎藤常務理事（日本生協連）、梶田事務局長（関西地連）近畿2府4県の会長、専務、常務理事、事務局長、事務局が出席し、総勢で50名の参加となりました。

今回は、生協活動への助成、生協活動に対する行政指導・認可等のありかたについて、生協の環境問題への取組みと行政施策との協調についてをテーマに協議がされました。

厚生省側から、今回部局改編により生協の

窓口が社会援護局地域福祉課になったこと、生協店舗活動への街づくり・環境整備等での地域社会への貢献、あわせて生協の福祉活動への期待が述べられました。生協側からは、ICA東京大会が成功裡に終わったこととその概要が報告され、環境問題へのとりくみとあわせ、福祉活動の積極的な推進について報告されました。

また、貸し付け金、委託金制度等、各府県における行政と生協との、育成・援助の実情や連携の実態が出され、生協の社会的な役割について協議され、厚生省、各府県行政担当者とは生協連の率直な交流は、大変有意義なものとなっています。次年度は、奈良で開催される予定になっています。

第2回ノーモア・ウォーのつどい

新谷のり子“語りベコンサート”に 140名がつどい、平和について考えました。

今年も昨年にひきつづき、平和のとりくみである「ノーモア・ウォーのつどい」がならコープと県連の共催で、12月8日、奈良県婦人会館において開催され、140名が参加しました。

今回は、「新谷のり子・語りベコンサート」をメインとして平和の大切さを訴え・確認し合う集会となりました。

第1部は、詩“あの時の道に戻らないで”（ならコープ・平和の会 戸田真紀子作）の朗読からはじまり、沖縄戦跡・基地めぐり報告のスライドがナレーションを交え写しされました。

第2部は「新谷のり子“語りベコンサート”」で、歌あり、おしゃべりあり、また、スライドと共に詩の朗読ありで、歌手・新谷のり子さんのエネルギッシュでパワフルな中にも、説得力ある語り調で魅了され、会場のそこかしこで目頭を押さえる姿がありました。

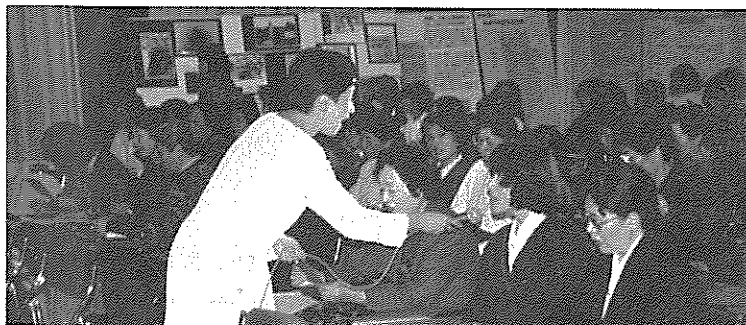
最後に、参加者全員で「フランシーヌの場合」を合唱しました。



奈良教育大学生協でも

12月10日奈良教育大学生協は、市民平和行進の通し行進者であった三谷豊氏を招いての独自企画を行い、スライドを交えての感想や、討論を行いました。

12月8日の「ノーモア・ウォーのつどい」には、日程の関係で参加できなかったこともあり、組合員平和企画として開催されたもので11名が参加し、自分にとって平和とはなにかを語り合い、平和への思いを深め合うことができました。





92年

- 10/14 協同組合フェスティバル・第5回実行委員会
- 10/15 ノーモア・ウォーのつどい・第2回実行委員会
- * 10/23 生協公開会議(専務理事)
- 10/23 製造物責任法学習会(県連事務局)
- 10/25 第5回協同組合フェスティバル
- * 11/5~6第4回近畿地区生協・行政合同会議(事務局長)
- 11/10 第8回事務局会議
- 11/11 協同組合フェスティバル・第6回実行委員会(反省会)
- 11/16 ノーモア・ウォーのつどい・第3回実行委員会
- * 11/16~17第31回全国消費者大会(事務局1名)
- * 11/30~12/1関西地連府県連活動交流会(事務局長)
- 12/8 第2回ノーモア・ウォーのつどい
- 12/10 第4回理事会
- 12/14 ノーモア・ウォーのつどい・第4回実行委員会(反省会)

93年

- 1/13 第9回事務局会議
- * 1/19~20厚生省・県合同指導検査(ならコープ)
- * 1/21~22厚生省・県合同指導検査(奈良女子大生協)



環境活動交流会

日時 2月15日(月) 10:30~14:00
会場 中小企業会館(近鉄奈良駅より3分)
内容 森田三郎氏の講演
申し込み ならコープ
組合員活動部(☎0742-34-8735)

コープ六条 ワイワイ市

日時 1月27日(水) 10:30~15:00
会場 コープ六条・店頭及び2階集会室
内容 リサイクルバザー
コープ鍋・おにぎり・うどん(無料)
抽選会(空くじなし)
お問合せは ならコープ・コープ六条
(☎ 0742-45-7882)

くらしの講座

国際貢献シリーズ②

「アジアの草の根交流の現場から」

日時 2月22日(月) 10:15~12:00
会場 樫原文化会館(3階第1会議室)
近鉄八木駅下車徒歩5分
講師 PHD協会 藤野達也氏
申し込み ならコープ組合員活動部
(☎0742-34-8735)

主催 ならコープ

消費者ネットワーク こむらいふ